

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2774800581		
法人名	社会医療法人 垣谷会		
事業所名	グループホーム田井城の里		
所在地	大阪府松原市田井城6丁目282番地2 (2階)		
自己評価作成日	平成 28年 8月 4日	評価結果市町村受理日	平成 28年 10月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=2774800581-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 9月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく笑いが絶えないホームで介護職員の人員配置が手厚く、職員の離職率も少ないので入居者や家族と長い時間をかけて築いた良い関係性が出来ています。また、お一人おひとりの生活歴に合わせた支援、日々の過ごし方にも目を向けています。意思疎通が難しくなった入居者にはじっくりと向き合い、入居者の目線にたった考えを重視して、安心して生活していただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保健、医療、福祉、三位一体の地域展開を進めている社会医療法人が運営する2ユニットのグループホームです。ホームは2階建て、1階には同法人デイサービスセンターを併設しています。ホームでは提携医療機関と連携し緊急時にはいつでも対応できる医療連携体制を整えています。年に2回家族会を開催し家族の意向を大切にされた支援をしています。利用者一人ひとりに具体的に細やかな介護計画書を作成し、居室担当者を中心に家族と話し合って具体化しています。職員は、利用者が希望する店舗での買物や墓参り、海釣り、神社、公園、レストラン、デイサービス利用者との交流等に出かけられるように家族と協力して取り組んでいます。利用者の希望があれば「利用者がお金を持って買物をする」支援もしています。利用者は穏やかで笑顔も多く、職員はやさしく親切で、利用者一人ひとりの気持ちを大切にされた支援をしています。家族との連携が良く、運営推進会議メンバーや法人本部のバックアップも大きいことから、職員の定着率が高く安定したサービス提供を行っているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活が送れることを目指します」会議、カンファレンスの場で理念に基づいた考え方を伝えている。	事業所理念では「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活が送れることを目指します」として、地域密着型サービスの意義を踏まえた利用者支援を明確にしています。理念は玄関等に掲げて職員間で共有し日々実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の畑をしている夫婦と日常の会話、ちびっこ相撲小学校の運動会見学などを通して、地域と交流をしている。	ホームでは地域の地蔵盆への参加、小学校の運動会見学、幼児や学童が参加するちびっこ相撲大会の見学、地域ボランティアの来訪、同法人運営のデイサービス利用者との交流、法人主催の健康祭りへの参加等を通じて、地域との交流を進めています。利用者は散歩や買物、外食等に出かけて近隣の住民と談笑する機会を持っています。職員は市からの要請を受けて地域向けの「家族介護教室」等を開催し、地域貢献に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	松原市より家族介護教室を受注があり地域の方々に認知症の理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告、職員研修内容を伝えている。職員研修の内容も会議のご意見を参考にしている。議事録は事業所内に提示しており、職員間で情報を共有し、市の高齢者課に提出している。	運営推進会議は、運営規定に沿って2ヵ月1回、年6回の定期開催をしています。メンバー構成は地区老人会長、地区民生委員、市職員、利用者家族、ホーム職員等です。会議では最近の取り組みとしてホームより消防避難訓練の実施、相撲力士の来訪、事業所研修、今後の行事予定等の報告を行い、新入職員の紹介等をしています。出席者からは相撲力士やフラダンス等のボランティア紹介、施設内研修への評価、利用者が納得して入居できるように導いた職員への評価等、ホーム運営をバックアップする発言が多く出されています。会議で出された意見や助言は職員間で共有しホーム運営に活かしています。運営推進会議開催日程については「田井城の里よりお知らせ」に掲載して利用者家族の参加を呼びかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で市の担当者に参加して頂き、取り組みなど事業所の情報を提供している。</p>	<p>管理者は市役所に出向いた際には担当課に立ち寄り、相談や情報交換をしています。グループホーム連絡会で市担当者と情報を交換し、地域の課題等を共有しています。市からの要請を受けて「家族介護教室」の開催や認知症サポーター養成講座の開催等に取り組み、協力関係を築いています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の研修を施設内研修として、年に一回研修を行っている。 玄関はキーロックをかけている。入居者様、一人で新聞を取りにいかれる。</p>	<p>ホームではサービス利用契約書に「身体拘束その他の行動制限」について明記し、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束を行わない方針を明確にしています。管理者やリーダーは身体拘束をしないケアの大切さを認識し、職員研修のテーマとして施設内研修に取り組んでいます。職員は日々の利用者支援の中で、身体拘束の対象になるような行為は無いが、職員間で話し合い相互に確認しています。玄関は、数年前には開錠していましたが、最近では利用者の安全を確保するという理由から終日施錠をしています。玄関扉の高い位置にあるロックボタンを押すと開錠することはできます。職員は利用者の外出意向を察知したら、さりげなく声かけをして一緒に外出する等の支援をしています。</p>	<p>玄関の開錠については究極の課題として、実現に向けて取り組んではいかがでしょうか。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修で学び、虐待のない介護を学んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は外部研修の参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の際は、分かり易い説明を心がけて話し、理解、納得を得られるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは来所の際や日ごろの電話連絡などで聞き取る事をしている。二ヶ月に一回の運営推進会議、年に二回の家族会を開催して、運営面等の意見や要望、聞き取りを行っている。	職員は家族の意見や要望を大切にしたいホーム運営を行い、利用者一人ひとりの意向に添った個別支援を進めています。家族来訪時には居室担当職員が利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。居室担当職員が窓口となり、月1回お便りノートを家族に見てもらい、利用者の外出の様子や楽しみごと支援等についても細やかな報告をしています。玄関には意見箱と用紙を置いて意見を出しやすくしています。家族の提言により、家族、利用者、職員で希望の場所に出かける支援等を実現しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見は日々の申し送り、アンケートや、定期的に会議を開催して意見の聞き取りを行っている。日頃から職員の意見や提案が反映されやすい体制を作れている。</p>	<p>管理者やリーダーは、職員の意見を大切にしたいホーム運営を進めています。管理者は年に1～2回の個人面談を行い、職員の思いや意向を聞き取り運営に活かしています。職員は各ユニット会議や日々の申し送り時に、発言や提案をしています。会議で出された提案等は職員間で合意した上で、利用者支援に活かしています。大きな課題については法人本部と相談しながら対応しています。ホームでは職員の働く環境の整備も合わせて取り組んでいます。そのこともあり職員の定着率は高く、利用者支援の充実に繋がっていると評価できます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>定期的に職員と個別面談を行い聞き取りし、ストレス等の軽減を図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常勤職員が指導役となり定期的に研修を行っている。職員が全員研修を受けられるように、日程や内容なども各自が責任をもって行える仕組みにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松原市のグループホームと定期的に会議、施設見学など交流する機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される最初は不安の為、情緒不安定になられるが心配を取り除く様に努め信頼を得れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を良く聞き問題解決に努める。家族との信頼関係を築いている。居室の整備、帰宅願望の対応など、家族と相談して対応を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって大切にされている事はなにかを把握して、安心して生活できるようにご支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活させていただいている者として、洗濯物や植木などの水やりを共に行い、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にご本人の毎日の様子を伝え、異常があれば連絡を密にし、常にどのような状態で過ごされているか家族に知ってもらっている。月1回お便りノートでご様子を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知り合いの訪問は歓迎している。訪問時には自室などでお話をさせていただいている。以前に利用していたデイサービスの行事に参加や、地域の歌う会に参加している。	友人や知人の来訪時には湯茶の接待をして、利用者が落ち着いて話ができるように支援しています。職員は、利用者が行きつけの店舗での買物や墓参り、海釣り、神社参拝、公園、レストラン、利用者が過去に利用していたデイサービス行事等に出かけられるように家族とも相談しながら支援を進めています。利用者の希望があれば電話をかけたり、手紙を出したり、お金を持って買物をする等の支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握して、近場の散歩、買い物、外食を一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時に対応している。退去後もお見舞いに行くなどの関係性をつなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや、暮らしの中での言動を把握・記録し、サービスに活かすようにしている。	利用者一人ひとりに担当職員を配置し各部屋の入口に、担当職員の氏名と写真を掲示して利用者が安心して過ごせるようにしています。職員は利用者に寄り添い、日常会話や個別に話をする機会を通じて利用者の生活歴や趣味、特技、嗜好品等を把握し、利用者支援に活かしています。利用者が気持ちを言葉で表せない場合には、表情やしぐさ、行動から利用者の気持ちを把握し、家族に相談しながら利用者本位の対応をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドや家族、ご本人から生活歴を聞き取り、サービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、記録、申し送りなどで心身状態の把握を行い、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はスタッフの意見本人家族の要望を反映して作成している。	介護計画書作成時には利用者・家族の希望や意向を細やかに聴取し計画に反映しています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を基に毎月1回モニタリングを行い、3カ月に1回見直しをしています。更新時には家族と居室担当者を交えたカンファレンスを行い、個別支援の充実を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録して職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスに行事参加や、緊急時は協力医療機関以外の病院への受診同行なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報紙を確認して催しごとなどに積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、ご本人、家族様の意向を尊重して、かかりつけ医を継続するかどうかは、家族に判断していただいている。	利用者・家族の意向に添った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。状態によっては利用者・家族と相談して病院受診をしたり、歯科については訪問診療を受けたりしています。受診の際、家族の都合がつかない場合には職員が付き添い支援をしています。ホームでは提携医療機関と連携して緊急時には適切な医療が受けられるように医療連携支援体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療である明治橋病院から週に一度、看護師が健康チェックに来る。また、併設されているデイサービスの看護師に必要時は相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ADLの情報は提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族と主治医とグループホームが話し合い、ご本人にとって一番適当だと思われる支援をしている。	入居時には利用者・家族に終末期の支援について説明し、意向を確認しています。利用者が重度化した場合には再度意向を確認し、主治医を交えて話し合い、可能な限り家族の意向に添った支援をしています。最近では終末期には入院される利用者が多い状況ですが、ホームでは過去に利用者・家族の希望に添って看取り支援を行った経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施している。対応などは目のつく場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練の実施や職員等の応援体制の整備をしている。</p>	<p>ホームでは、災害発生マニュアルに沿って、年に2回の避難訓練をしています。管理者は万一の時に備えて、火災発生場所を職員等に知らせずに、火元を探すところから訓練をしています。また、近隣への通報ができるように通報機器の導入を検討しています。非常口の鍵は非常口の近くに置いてあるので、いつでも開けることができます。備蓄は法人本部で保管していますが、ホームでも台所に米、冷凍庫には食材、倉庫には調味料・乾物・カセットボンベ等を保管しており、物品担当者が在庫管理を行い賞味期限等のチェックをしています。施設内に配置している自動販売機(飲料)は災害時にも使えるようにしています。</p>	<p>災害発生マニュアルの字は小さく見にくい状況があり、職員間で活用しやすくするために整備・充実を計画しています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなどではタオルを膝にかける。入れ歯の取り外しは自室で行うなどの対応を行っている	ホームでは利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援ができるよう接遇をテーマとした施設内研修に力を入れています。職員は利用者の意向と自己決定を大切にした支援を心がけています。利用者のプライバシーに配慮して、排泄介助時にはタオル等で覆うなどの工夫をしています。また、入れ歯等の介助についても自室で行うなどの配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の思いを伺ったり、選択肢にして自己決定を促している。ご本人の意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを優先することを中心として考え、業務改善を努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に身だしなみを整える。外出時には季節に適した服装などおしゃれの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けや配膳など可能な限り支援している。	朝食と夕食は業者が作成した献立と食材を搬入し、ホームで調理しています。昼食はデイサービスセンター厨房で作られた食事をホームで配膳しています。利用者はテーブル拭きや盛り付け、配膳、下膳等を一緒にしています。月に1回は食事委員会で季節物の献立を作り、食材の買い出しから利用者と一緒にしています。嚥下困難な利用者には、とろみ食やミキサー食を用意して、職員は優しく声かけをしながら食事介助をしています。缶詰のフルーツが苦手な利用者には、ヨーグルトを提供するなどの工夫もしています。夏には、家族も一緒にそうめん流しを楽しみ、月に1度は外食を楽しむ支援をしています。職員は介助に集中する等の理由から利用者と一緒に食事をしていない状況です。	1日1食は職員が利用者と同じものを食べて、食事内容や味付け等の課題を共有し、改善に活かすと良いのではないのでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して、食事量・水分量の把握をしている。また咀嚼、嚥下機能の低下している方にはトロミ、ミキサーなどの食事形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っていただき、各入居者様で全介助、一部介助、自立などで支援方法を変えている。 毎週金曜日の夜に義歯を預かり薬品で洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れが増えてきた方には誘導回数を増やしたり、立位などが不安定な方には二人介助でトイレにご案内している。	職員は利用者一人ひとりの力や排泄習慣を活かして、トイレでの排泄ができるように支援しています。排泄パターンを確認して早めに声かけを行い、気持ち良く排泄ができるように配慮しています。また、安全面を考慮して必要時には二人介助をしています。室内にポータブルトイレを配置して夜間の対応にも配慮しています。排便リズムが整わない場合には、飲物や運動等で調整し利用者が気持ち良く排便できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に冷たいミルクなどを飲んでいただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に音楽を流したり、お好みの入浴剤をいれて心地よい空間づくりを行っている。 入浴に気が進まない方はお声かけを工夫してみたり、なるべく本人の入りたい時に入浴していただいている。	利用者は、週に2～3回の入浴をしています。職員は利用者の希望やタイミングに合わせて入浴支援を行い、同性介助等の配慮をすることで、入浴を楽しめるようにしています。入浴を好まない利用者には散歩に行くなどして、汗をかいたそのタイミングで入浴を勧める、お気に入りの職員の声かけで入浴をしてもらう等の工夫をしています。利用者の状況によっては介護リフトでの入浴支援もしています。柚子風呂等の季節湯を提供して、利用者が入浴をさらに楽しめるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせ、必要に応じて休憩をとっていただいている。夜間の安眠を考慮して、日中は時間を決めて軽い休憩をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬の情報を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味のピアノなど趣味をプランに入れ、支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や近隣の散歩を実施するほか、ハルカス、釣り、月に一度、入居者によって外食への支援などを行っている。	日常的にはホーム周辺の散歩を行い、スーパーや近隣店舗への買物や喫茶店等に出かけています。年間を通じては、同法人の車を活用して、公園の花見、小学校の運動会、ちびっこ相撲大会、地藏盆、初詣、喫茶店、海釣り、植物園、百貨店等への買物、外食等に出かけています。家族と一緒に外食等に出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によってお店で支払いをしていただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族にメッセージを書いていただくなど、ご希望時は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節毎に貼り絵などを飾り、話し声や笑い声など、楽しい空間づくりを心がけているが、時に騒がしい時もあるので注意していきたい。湿度や温度は空調などで快適な温度で生活していただいている。	ホーム玄関を入ると右手にはエレベーター、会議室、左手には1階のフロア玄関があります。食堂兼居間は明るく広々として、窓辺にはソファを置き利用者全員がゆっくりくつろげるようにしています。トイレは広く車イスや歩行器にも対応できます。浴室は家庭的で、介助用のイスやリフトも常備しています。1階の庭、2階のベランダにはベンチを置いて、利用者が活用できるようにしています。1階には同法人デイサービスセンターが併設されており、中から行き来することができるので交流も容易です。職員は空調に配慮して利用者が快適に過ごせるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、庭やベランダにはベンチを置いて自由に過ごせるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活していた場所から馴染の使い慣れた物を居室に持ち込んでいただき、ご本人にとって落ち着いて心地よく過ごしていただける環境づくりを支援している。	1階居室入口には、夏祭り(納涼祭)の時に作った利用者の名前入り作品が飾られ、2階居室入口には、職員手作りの名前入り暖簾がかかっています。居室には、ベッド、ロッカー、整理ダンス、洗面所が設置されています。利用者は、テレビ、ラジカセ、机、椅子、マッサージ機、写真、アルバム、ぬいぐるみ、を持ち込み、居心地よく過ごせる居室にしています。床に畳を敷いて和風になっている利用者もいます。職員は利用者一人ひとりの想いを大切に、その人らしく安心して過ごせる居場所となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にネームプレートや、自室内は導線を意識し安全な環境を作っている。		